

終活

元気な今だから考える

グラフでみる

「ひとり暮らしに関する意識調査」

自覚していますか？ 誰でもいつかは「ひとりになる」

人生100年時代と言われていますが、夫婦ふたりが共に生きてる保証はありません。誰でもいつかは「おひとり様」になります。そこで、北九州市内に住む高齢者を対象に「ひとり暮らしに関する意識調査」を実施しました。



本誌編集部では、北九州市老人クラブ連合会などの協力を得て標記調査を実施しました。調査結果は二回に分けて報告しますが、今回は調査対象者150名の年齢・家族構成などの属性および日常生活での困り事や悩み事相談等々についての集計結果を分析してみました。

家族構成・年間収入

家族構成は夫婦世帯が5割近くを、次にひとり世帯が3割近くを占め、家族同居世帯は2割でした。また年齢別では70歳代が5割強、80歳代が3割、60歳代が2割弱となりました。

年間収入は回答者の3割近くが200万円～240万円で、これを

境に190万円台以下が2割弱、250万円～390万円以上が3割台を占めました。

総務省統計局の「家計調査年報（家計収支編）」によると、2017年の高齢者夫婦世帯の月平均実収入は20万9198円となっていますので、かけ離れた調査結果とはいえな

日常生活で一番困るいつ

7割の方が夫婦&家族同居世帯であることを念頭に、「ひとり暮らしになったら、日常生活で一番困ること」とは聞いたところ、別表のとおりとなりました。

①から③までの上位を占めたのは、病気・介護・健康と自身の身体に関

する健康問題であることが明らかとなりました。

次に、④自然災害と⑥生活収入を除いた⑤から⑧までの食事・買物・掃除洗濯など自身の生活上必要不可欠な家事作業でも困ることが指摘されました。特に、70～80代男性の4人に1人が家事・調理を妻など家族に頼っており、自分ひとりになった時は作れないことが判明しました。

用事を誰に頼むか 心配事や悩み事を 誰に相談するか

元気な時はひとりでも動けますが、病気や怪我・介護などで動けなくなつた時は①子供に頼むが断トツで1位を占め、次に②兄弟・親族 ③介護

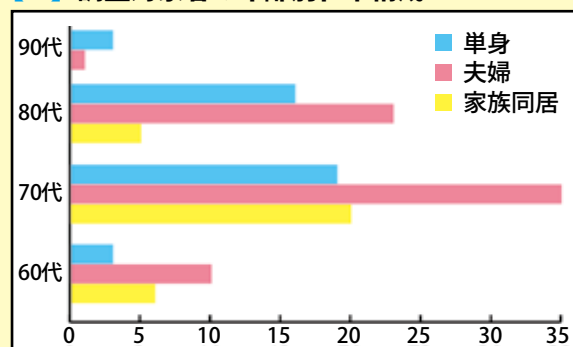
関係者の順となりました。また、心配事や悩み事を誰に相談するかも、①子供が断トツを占め、②友人・知人 ③兄弟・親族の順となりましたが、やはり悩み事などは兄弟よりも友人・知人の方が相談し易いのでしょうか。

内容にもよりますが、心配事や悩み事は介護関係者や民生委員、司法書士や行政書士などの専門相談員を活用する方が、早く解決する場合もあることを頭の中に入れておいてください。

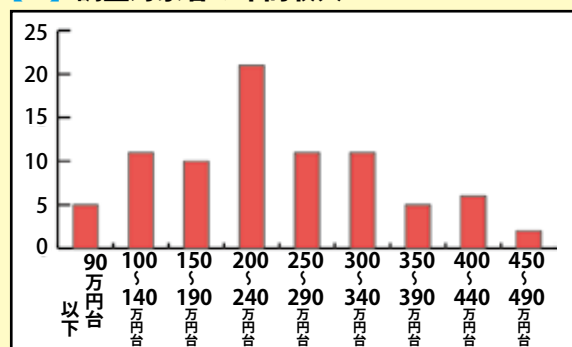
シニアスタッフ 上田篤彦

「ひとり暮らしに関する意識調査」集計結果(2019年5月4日)

【1】調査対象者の年齢別世帯構成



【2】調査対象者の年間収入



【3】一人暮らしになったら、日常生活で一番困ることは(複数回答)

項目	年代別	全体	60代	70代	80代	90代
①病気・通院		98	10	57	28	3
②寝たきり・介護		81	9	41	29	2
③健康問題		59	14	28	16	1
④自然災害		41	4	19	17	1
⑤食事・調理		40	5	20	13	2
⑥生活収入		16	2	13	1	0
⑦買物		15	2	12	1	0
⑧掃除・洗濯		15	3	9	3	0
⑨詐欺・犯罪		11	0	5	5	1
⑩困ることはない		10	1	7	2	0
⑪住まい		7	2	4	1	0
⑫ゴミ出し		7	0	5	2	0
⑬その他		5	2	0	3	0
⑭財産管理		4	3	1	0	0

【4】一人暮らしになったら、日常の用事を誰に頼むか

項目	年代別	全体	60代	70代	80代	90代
①子供		96	10	50	33	3
②兄弟・親族		17	2	8	7	0
③介護関係者		13	5	7	1	0
④友人・知人		12	0	9	2	1
⑤いない		10	3	5	2	0
⑥近隣者		8	0	4	4	0
⑦民生委員		8	0	7	1	0
⑧子供の配偶者		6	2	3	1	0
⑨行政関係者		6	1	5	0	0
⑩その他		3	0	2	1	0

【5】一人暮らしになったら、心配事や悩みを誰に相談するか

項目 \ 年代別	全体	60代	70代	80代	90代
①子供	110	16	54	36	4
②兄弟・親族	27	3	21	3	0
③介護関係者	20	4	6	10	0
④友人・知人	7	0	6	1	0
⑤民生委員	6	1	5	0	0
⑥行政関係者	6	2	4	0	0
⑦いない	6	0	4	2	0
⑧医師・看護師	4	0	3	1	0
⑨近隣者	3	1	2	0	0
⑩その他	1	0	1	0	0